

書けるところから埋めてよい。最後に ①問い→⑦結論 の順に読み直して、つながり確かめる。自分の側だけでなく、相手の意見にも根拠があると考えて書くのがこのシートの約束。

① 問い（問題） 問題意識と背景から立てた問い。「～すべきか」「なぜ～か」の形で一文に

自分の側

対話

他者の側

② 主張 問いへの自分の考えを一文で。はじめは仮説でよい

⑥ 反駁 ⑤に応答して②を守る

⑤ 対立意見 同じ問いへの、自分と異なる意見を一文で

▲ ささえる

▲ 相手の意見にも根拠がある

④ 論拠（理由づけ） ③が②につながるわけ。かくれた前提を言葉に

⑤' 相手の事実・データ 相手の立場に立って、いちばん強い
／論拠 根拠を書く

③ 事実・データ 調べた事実・資料・記録。出どころも書く

反駁のコツ

- ・相手のいちばん強いところに応答する
- ・「たしかに____。でも____。」
- ・目的は言い負かすことではなく、よりよい⑦にたどり着くこと

⑦ 結論 ①への答え。⑤⑥の検討をふまえて。「今後たしかめたいこと」があれば最後に一言

赤字が記入例。事実・データに「(例)」とあるのは架空の数値・事例です。実際は自分の学校・地域で調べた事実を、出どころつきで書きます。

① 問い（問題）

問題意識と背景から立てた問い

私たちの中学校では、スマートフォンの校内持ち込みを認めるべきか。
(背景：登下校時の連絡手段としてほしいという声と、学習への影響やトラブルを心配する声の両方がある)

自分の側	対話	他者の側
② 主張 条件つきで認めるべきだ。朝、担任に預けて下校時に返す「預かり方式」にする。 ▲ ささえる	⑥ 反駁 たしかに、紛失や学校の責任の問題は重い。でも、鍵付きの保管庫での一括保管と保護者の同意書で、リスクは下げられる。トラブルの多くは「使う場面」で起きるから、校内では電源を切って預ける方式なら、心配の中心は避けられる。 反駁のコツ	⑤ 対立意見 持ち込み自体を認めるべきではない。紛失・盗難や、SNSでのトラブルが増えるおそれがあるからだ。 ▲ 相手の意見にも根拠がある
④ 論拠（理由づけ） 連絡手段が確保されると登下校の安全性が高まる。授業中に使えない仕組みなら、学習への影響は小さく抑えられる。		⑤' 相手の事実・データ／論拠 事実：中学生のSNSトラブルの相談件数は増えている（例・自治体の相談窓口の公表資料）。 論拠：学校に持ち込む機会が増えるほど、紛失や使用をめぐる指導の負担と責任の問題が生じやすい。
③ 事実・データ ・校内アンケートで「登下校中に連絡手段がなく困った」と答えた生徒が34人いた（例・生徒会調べ） ・災害時の引き渡し訓練で、保護者との連絡に1時間以上かかった学年があった（例） ・近隣のA中学校は預かり方式で2年間運用し、大きなトラブルの報告がない（例・A中だより）		

⑦ 結論

連絡手段としての必要性は高く、リスクは運用のしかたで抑えられるため、預かり方式という条件つきで持ち込みを認めるべきだ。まず試行期間を設け、実際のトラブル件数と使用の方のデータで運用を見直す。